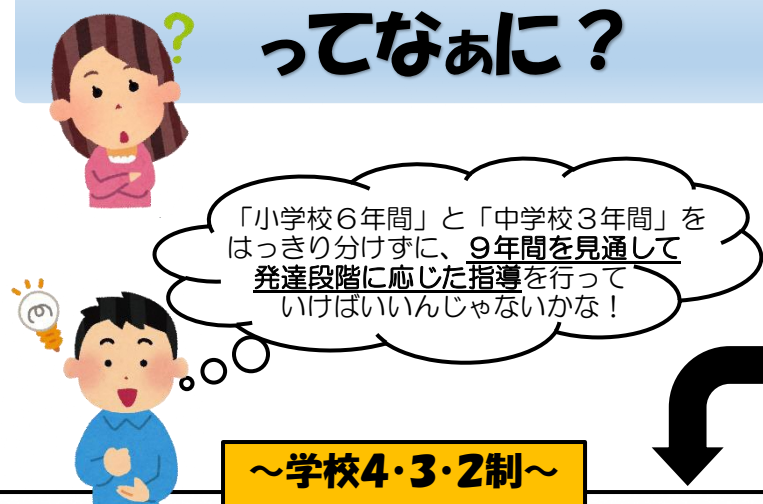


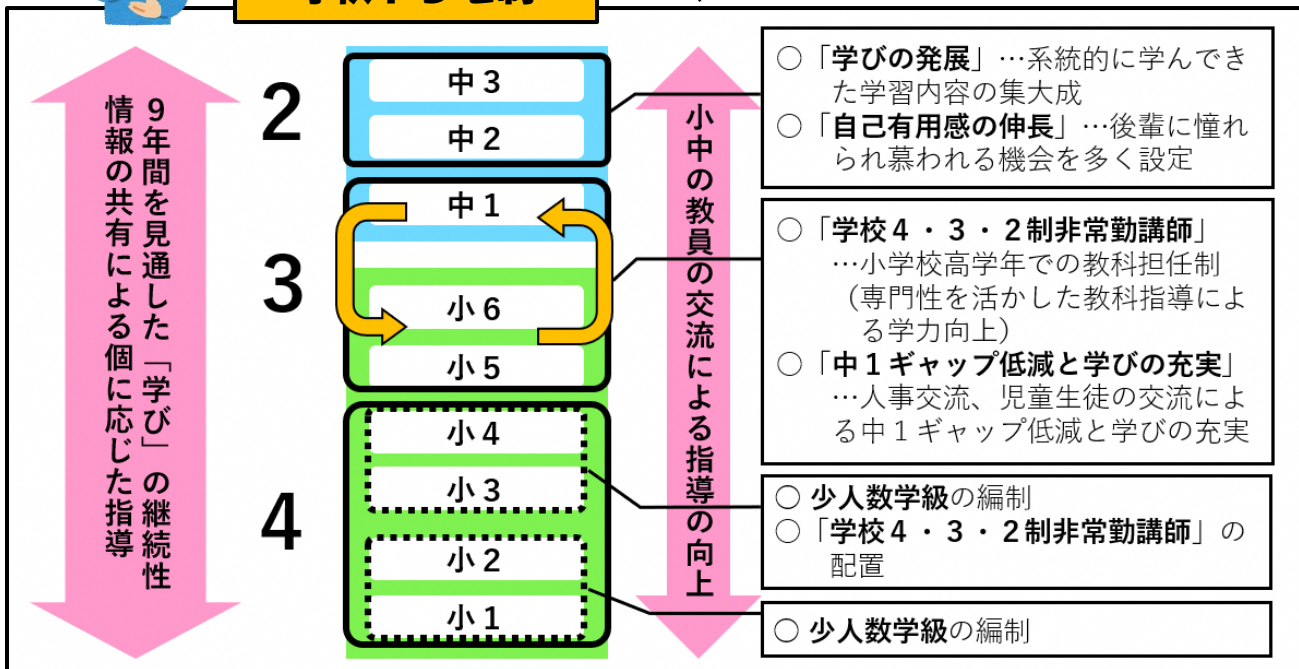
「学校4・3・2制」 ってなあに？



～従来の枠組み～



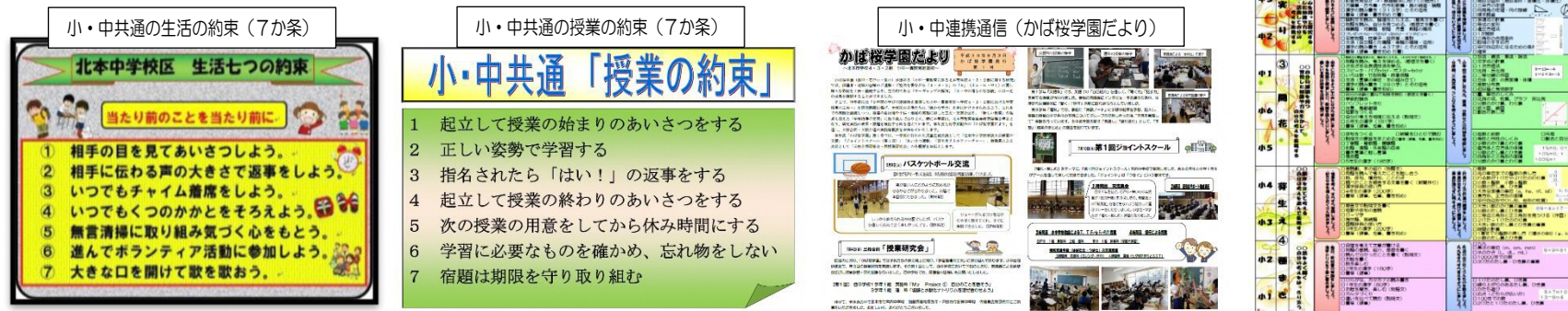
～学校4・3・2制～



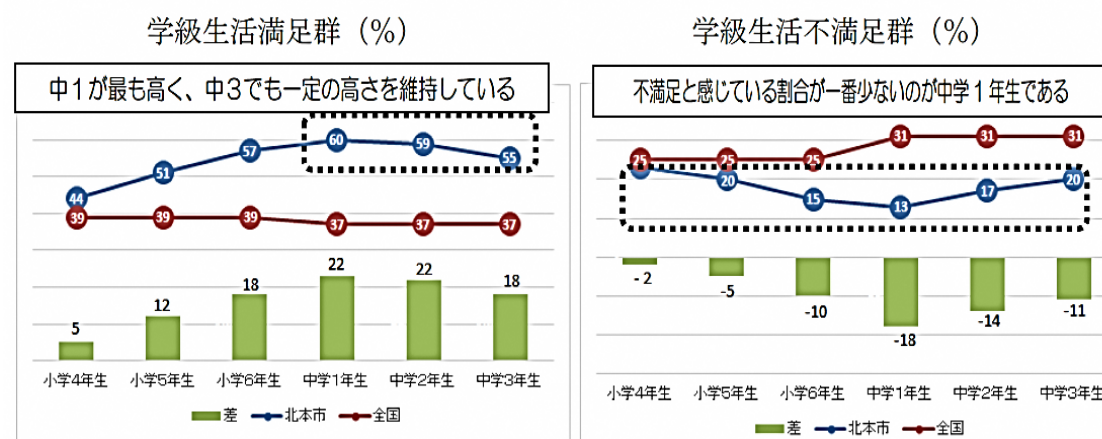
「学校4・3・2制」の取組の一部を紹介します！



このような成果が挙がっています！



学級満足度調査 ～hyper-QU 調査の分析～



○「学級生活満足度」と「学校生活意欲」の両方において全ての学年が、全ての項目で全国平均を上回り、さらに中学1年生の割合が最も高い結果となっています。

○中学校に入学した時に不安を抱く生徒(中1ギャップを感じる生徒)は全国平均と比較しても少ないということが明らかになりました。

○このことより、中学校へ入学後、生徒が安心して学校生活を送れていることや、「学校4・3・2制」の「3(小5～中1)」における取組の成果を見て取ることができます。

○今後は「学校4・3・2制」の「4(小1～小4)」や「2(中2～中3)」の学年に対しても、児童生徒がさらに「学級内での自己有用感」を得られるような取組を検討し、学級満足度の割合の減少をとおして、不登校の未然防止に繋げていく必要があります。

市内の12小・中学校を4つの「中学校区」に分け、教員の相互交流を行い、小中共通の授業実践や生徒指導を行っています。また、児童生徒の相互交流も実施し、様々な「中1ギャップ」の低減を図っています。

4つの「中学校区」それぞれにおいて研究課題を設定して、2か年計画で研究・発表活動を行っています。

